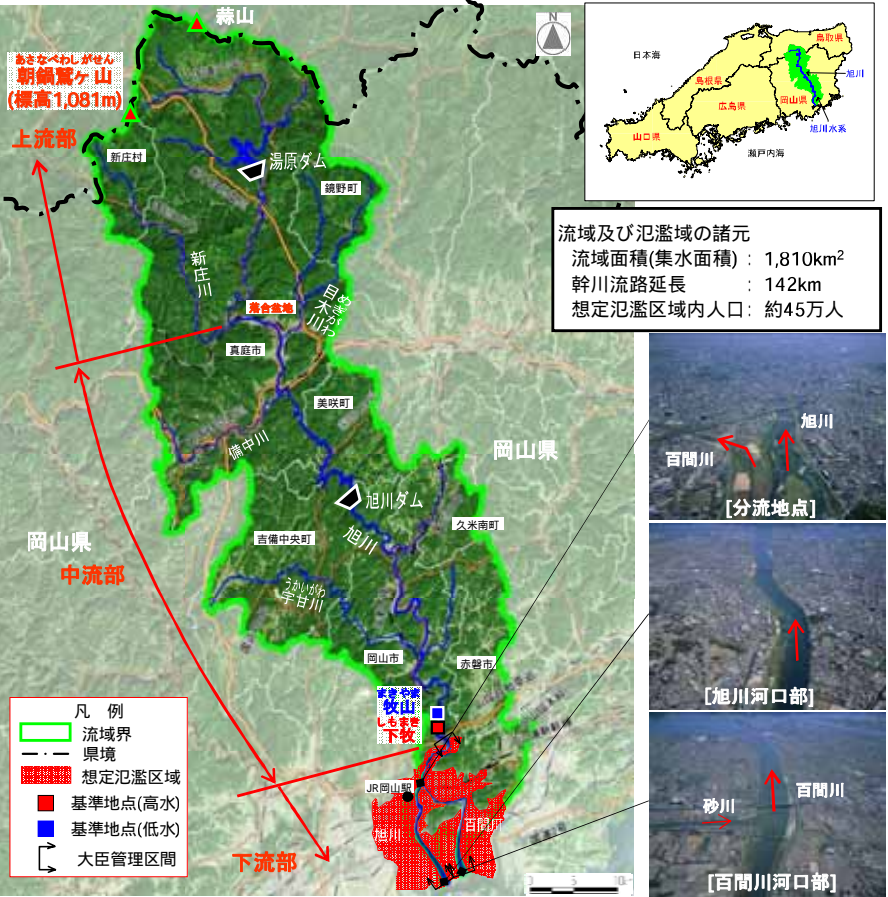


旭川水系河川整備基本方針の概要

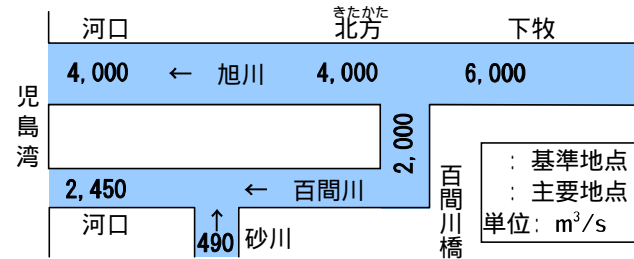
流域及び河川の概要

岡山県の中央部に位置し、下流部は資産が集積する岡山市街地を貫流河口部は干拓地で形成され、ゼロメートル地帯が広がるため、洪水・高潮等に脆弱な地形
下流部には鳥城で知られる岡山城とそれに対面する中州には日本三名園の一つである岡山後楽園が位置し、社会、文化の基盤となっている

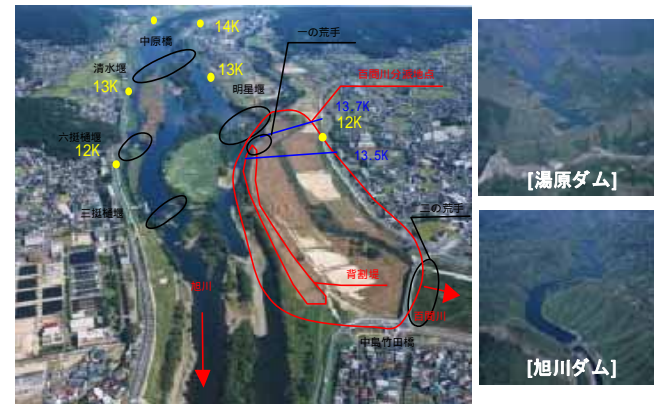


災害の発生の防止又は軽減

工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等を総合的に検討し、基本方針においても既定計画と同様に下牧地点における基本高水のピーク流量を8,000m³/sと設定



【計画高水流量配分図】



基本高水と計画高水との差分については、既存施設の有効活用で対応

河道掘削等による河積の確保にあたっては、河道の維持等に配慮し、上流からの土砂供給や河道への堆積状況等を監視・把握しながら計画的に実施

河道内の樹木については、樹木による障害が洪水位へ与える影響を把握するために必要な調査を実施し、河川環境の保全に配慮しつつ、洪水の安全な流下や百間川へ適正な分派を図るため、計画的な伐開等を実施
百間川への分派機能を有する一の荒手、減勢効果を有する二の荒手、背割堤等の施設の改修を実施

百間川は分派点の改修と合わせて百間川河口水門を増築し、適正な機能確保を図る

下流部には干拓によりできた人口・資産が集中する岡山市街地があり、低平地であるため高潮対策や内水対策を実施

河川環境の整備と保全

魚類が河川の上下流や本支川等を往来できるよう水域の連続性確保に努める
アユの産卵場である瀬、オヤニラミが生息する水際植生、水生植物のオニバスが生息するワンド、多様な生物の生息・生育・繁殖環境となっている河口干潟やヨシ原などの良好な自然環境の保全に努める
旭川下流部の岡山後楽園周辺等の貴重な歴史的空間の水辺景観の維持・形成に努める
流域の歴史・風土・文化を形成してきた自然の恵みを活用しつつ、川づくりを通じて上下流部の交流を促進する



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携し必要な流量の確保に努める
牧山地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期は概ね26m³/s、非かんがい期は概ね13m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする

あさひがわ
旭川水系（流域面積：1,810km²、幹川流路：142km）

旭川は、その源を岡山県真庭市蒜山の朝鍋鷲ヶ山（標高1,081m）に発し、新庄川、目木川、備中川等の支川を合わせて南流し、岡山市御津において宇甘川を合流し、岡山市三野において百間川を分派した後、岡山市の中心部を貫流して児島湾に注いでいる。

その流域は、岡山県中央部を南北に伸びており、関係市町村数は3市4町1村からなる。下流部には県庁所在地の岡山市が位置し、この地域の社会・経済・文化の基盤をなしている。沿川には山陽自動車道、国道2号、JR山陽新幹線、JR山陽本線、国道53号、JR津山線等が整備された交通の要衝となっている。上流部は大山隠岐国立公園、湯原奥津県立自然公園等、優れた景観と環境を形成し、中流部は旭川沿いの大部分が吉備清流県立自然公園に指定されており、豊かな自然環境に恵まれている。

旭川下流部の岡山市街地は、干拓等によって形成された低平地に発達しており、ゼロメートル地帯が広がっている。このような場所では河川からの氾濫により広範囲に浸水域が広がるだけでなく、内水や高潮によっても浸水するため、重大な被害が発生することとなる。

旭川の本格的な治水事業は、大正15年から直轄事業として着手したが、昭和9年9月の室戸台風により、旭川・百間川の堤防が決壊するなど甚大な被害を受けた。その後も流域の社会状況の変化等に対応した治水事業を展開してきているが、近年では平成10年10月洪水の浸水被害や平成16年8月の高潮被害が発生するなど、低平地特有の内水被害も併せて、未だ治水対策が課題となっている。

このような状況を踏まえ、沿川地域を洪水から防御するため、旭川の豊かな自然環境に配慮しながら、堤防の新設や質的強化、河道掘削、護岸整備等を実施する。また、流域内の洪水調節施設により洪水調節を行い、計画規模の洪水を安全に流下させる。岡山市街地においては、百間川への洪水の適正な分派を図るための改修を行うとともに、計画的な伐開等の適正な管理を実施する。また、洪水等による被害を極力抑えるため、関係機関や地域住民等と連携して、総合的な被害軽減対策を推進する。

河川環境の整備と保全に関しては、旭川と流域の人々との歴史的文化的なつながりを踏まえ、人々にうるおいとやすらぎを感じさせる豊かな自然と緑が織りなす良好な河川景観、清らかな水の流れの保全を図るとともに、多様な動植物の生息・生育・繁殖する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努める。

（基本高水のピーク流量及び計画高水流量）

旭川の基本高水のピーク流量は、既定の工事实施基本計画と同様に基準地点下牧において8,000m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により2,000m³/sを調節して河道への配分流量を6,000m³/sとする。